

はじめに

このたび、令和元年度の業務内容および調査研究の成果を、「福井県衛生環境研究センター年報（第18巻）」としてとりまとめました。

当センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」、および「情報の収集・解析・提供」の4つの役割を軸に業務を推進しています。

また、「福井県公設試験研究機関等評価ガイドライン」に基づき外部評価委員による機関評価を受け、その評価結果や意見を業務の推進に活かしています。

調査研究においては、外部評価委員による研究課題評価の結果や意見を踏まえ、県民や行政ニーズに即したテーマの創出に努めており、令和元年度には、新たに「福井県における越境大気汚染の解明に関する研究—PM_{2.5}の発生源に関する調査—」や「A群ロタウイルスの流行状況の解明」などのテーマに取り組みました。

試験・検査・測定については、新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大する中で、感染症の検査・研究機関として行政から依頼のあった検体を、迅速かつ正確に検査を行い、感染者の把握等、感染拡大防止に努めてきました。

今後とも、県民の健康と生活環境を守るための試験研究機関および健康危機管理対応機関として、保健所等関係機関とも緊密な連携を図り、県民および行政の新たなニーズに的確に応えていく所存です。

本年報の「Ⅱ 業務報告」では、部・室ごとに令和元年度の業務実績を掲載し、また、「Ⅲ 調査研究」および「Ⅳ 発表抄録」では、これまでに実施した調査研究の結果および学会等での発表の抄録等を掲載しています。

こうした成果については、ホームページや広報誌などを通じて分かりやすく情報発信するとともに、一般県民や小中学生向けの衛生・環境教室等を積極的に開催し、当センターの業務に対する認識と理解を深めていただけるように努めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和2年12月

福井県衛生環境研究センター所長 谷口 和之